

花崎育代教授 略歴・主要著作・論文目録

略歴

一九七九年三月 日本女子大学附属高等学校 卒業
一九八三年三月 日本女子大学 文学部 国文学科 卒業
一九八五年三月 日本女子大学 文学研究科 博士前期課程 修了
一九八五年四月 学習院女子中高等科教諭（一九九三年三月）
一九九三年四月 湘南短期大学専任講師（一九九九年三月）
一九九九年四月 湘南短期大学助教授（二〇〇六年三月）
二〇〇四年三月 日本女子大学 博士（文学）取得
二〇〇六年四月 立命館大学文学部教授（二〇二六年三月）

主な所属学会

立命館大学日本文学会
昭和文学会
日本近代文学会
日本文学協会
横光利一文学会
樋口一葉研究会
坂口安吾研究会
中原中也の会

主な委員歴

日本近代文学会	運営委員	一九九一年四月―一九九三年三月
日本文学協会	委員	一九九四年一月―一九九八年十二月
昭和文学会	編集委員	一九九六年八月―一九九九年八月
日本近代文学会	運営委員	一九九九年四月―二〇〇一年三月
昭和文学会	幹事	二〇〇〇年八月―二〇二一年八月
日本文学協会	委員（運営）	二〇〇一年一月―二〇〇五年十二月
日本近代文学会	編集委員	二〇〇三年四月―二〇〇五年三月
日本近代文学会	評議員	二〇〇四年四月―現在
日本文学協会	委員選考委員	二〇〇六年六月―二〇〇六年十二月
日本近代文学会	関西支部 運営委員	二〇〇七年四月―二〇一一年三月
昭和文学会	会務委員	二〇一〇年八月―二〇一二年八月
日本文学協会	委員	二〇一〇年一月―二〇一四年一月
昭和文学会	編集委員	二〇一三年八月―二〇一五年八月
日本文学協会	委員	二〇二一年一月―二〇二五年十二月
日本近代文学会	関西支部 運営委員	二〇二二年四月―二〇二六年三月
昭和文学会	編集委員	二〇二三年八月―二〇二五年八月
公益財団法人	日本近代文学館 図書資料委員会委員	二〇〇五年四月―現在
公益財団法人	日本近代文学館 運営審議会委員	二〇二一年四月―現在

受賞学術賞

二〇〇四年三月 第一二回やまなし文学賞（研究・評論部門）

科学研究費助成事業 研究課題

二〇〇九―二〇一二年

大岡昇平文学の基礎的および総合的研究―構想ノート・草稿類を含む―（研究課題番号 21520217）

二〇一三―二〇一八年

大岡昇平文学の基礎的および総合的研究―創作ノート・原稿類を含む―（研究課題番号 25370246）

二〇一八―二〇二三年

大岡昇平文学の基礎的および総合的研究―構想ノート・原稿類を含む―（研究課題番号 18K00337）

二〇二三―二〇二六年

大岡昇平文学の基礎的および総合的研究―創作ノート・草稿類を含む―（研究課題番号 23K00286）

主要著作

単著

・『大岡昇平研究』（双文社出版、二〇〇三年一〇月）

・『大岡昇平研究』（双文社出版、二〇一一年二月、改訂増刷）

編著

・「参考文献目録・主要参考文献解題」（『大岡昇平全集』第二三巻、筑摩書房、二〇〇三年八月）

・『小松清―フランス知識人との交流』（和田博文監修『ライブラリー・日本人のフランス体験』第八巻、柏書房、二〇一〇年二月）

主要論文

・「大岡昇平戦後の出発―『俘虜記』『武蔵野夫人』『野火』」（『国文目白』第二三号、一九八四年二月）

- ・「大岡昇平『酸素』——諸〈崩壊〉と二つの戦争下——」(『目白近代文学』第五号、一九八四年一〇月)
- ・「大岡昇平における初出「ハムレット日記」の意味」(『目白近代文学』第六号、一九八五年一〇月)
- ・「大岡昇平『磐梯愁色』——戦後第二期の第二次大戦小説欠落理由を求めて——」(『目白近代文学』第七号、一九八七年三月)
- ・「大岡昇平『花影』(一)——〈ラシーヌ〉から〈Dante〉へエピグラフの変更・その意味——」(『目白近代文学』第八号、一九八八年九月)
- ・「大岡昇平『花影』(二)——二つの〈実在の〉〈死〉——」(『作家の日記』より)(『国文目白』第二八号、一九八八年一月)
- ・「大岡昇平『花影』(三)——葉子像の形成迄 戦後先行作品から——」(『目白近代文学』第九号、一九九〇年五月)
- ・「大岡昇平『花影』(四)——〈戦後〉と葉子——」(『目白近代文学』第一〇号、一九九〇年二月)
- ・「上田理恵——自己直視への過程——」(『別冊 国文学解釈と鑑賞』(特集「女性作家の新流」)、一九九一年五月)
- ・「大岡昇平における〈光〉のイメージと意味」(『日本近代文学』第四四集、一九九一年五月)
- ・「大岡昇平『俘虜記』——〈恐怖〉と呼びたくない情念——」(『国文目白』第三一号、一九九一年一月)
- ・「〈永劫回帰〉を超えて——「武蔵野夫人」論——」(『昭和文学研究』第二四集、一九九二年二月)
- ・「大岡昇平『野火』論——〈社会的感情〉の彷徨——」(『国語と国文学』第七〇巻第七号、一九九三年七月)
- ・「『俘虜記』における〈恥〉の意味」(『近代の文学 井上百合子先生記念論集』、一九九三年八月)
- ・「作者とは……?」(『日本近代文学』第四九集、一九九三年一〇月)
- ・「大岡昇平『花影』(六)・終〈誰も知らない〉死／結び」(『湘南短期大学紀要』第五号、一九九四年三月)
- ・「『来宮心中』考——大岡昇平・昭和二十五年前後——」(『創造と思考』第四号、一九九四年三月)
- ・「宗助のウィンドー・ショッピング」(『湘南文学』第六号、一九九四年四月)
- ・「大岡昇平『花影』(五)——花・光・埋葬のイメージ——」(『目白近代文学』第二一号(終刊号)、一九九四年九月)
- ・「大岡昇平『動物』・ノート」(『湘南文学』第七号、一九九四年二月)
- ・「大岡昇平『化粧』——新聞小説と作家——」(『湘南短期大学紀要』第六号、一九九五年三月)
- ・「大岡昇平『沼津』考——海における溺死の意味——」(『創造と思考』第五号、一九九五年三月)
- ・「大岡昇平の〈千人針〉」(『湘南文学』第九号、一九九六年一月)
- ・「大岡昇平『車坂』論——幻想譚の否定——」(『創造と思考』第六号、一九九六年三月)
- ・「『あした来る人』考「タマリスクの樹」」(『別冊 国文学解釈と鑑賞』(特集「井上靖 詩と物語の饗宴」)、一九九六年十二月)
- ・「大岡昇平における『調査』と『思い入れ』」(『湘南文学』第一〇号、一九九六年二月)
- ・「大岡昇平における再訪と記憶」(『創造と思考』第七号、一九九七年三月)

- ・「大岡昇平における〈心象の地形〉——『幼年』を中心にして——」（『日本近代文学』第五六集、一九九七年五月）
- ・「葉桜と魔笛」論 ロマネスクの外／追想の家族」（『太宰治研究』第四号、一九九七年七月）
- ・「大岡昇平の〈軍靴〉」（『湘南文学』第二一号、一九九七年一〇月）
- ・「三島由紀夫『潮騒』考——麻績王とデキ王子——」（『湘南短期大学紀要』第九号、一九九八年三月）
- ・「大岡昇平における柳田国男——「一寸法師後日譚」をめぐって——」（『創造と思考』第八号、一九九八年三月）
- ・「大岡昇平の〈沖縄〉」（『湘南文学』第二二号、一九九九年一月）
- ・「大岡昇平「ミンドロ島ふたたび」——カタルシスの不可能性——」（『湘南短期大学紀要』第一〇号、一九九九年三月）
- ・「大岡昇平「黒髪」考——「花影」・「青春」・近松秋江」（『創造と思考』第九号、一九九九年三月）
- ・「追憶」／語られぬ花火」（特集 芥川龍之介と田端）（『湘南文学』第二三号、二〇〇〇年一月）
- ・「行人」を語る作家たち——芥川と大岡昇平」（『創造と思考』第一〇号、二〇〇〇年三月）
- ・映画『武蔵野夫人』と原作——「怪物」の行方——」（『湘南文学』第一四号、二〇〇一年一月）
- ・「大岡昇平「清姫」考——「彎珠の数珠」による〈対話〉——」（『創造と思考』第二一号、二〇〇一年三月）
- ・「網野菊「二月」小考」（『創造と思考』第二二号、二〇〇二年三月）
- ・「大岡昇平における吉村虎太郎——『天誅組』を中心に」（『昭和文学研究』第四五集、二〇〇二年九月）
- ・「大岡昇平『俘虜記』における同胞の描き方」（『湘南文学』第一六号、二〇〇三年一月）
- ・「大岡昇平と古山高麗雄——『俘虜記』と「プレオー」の夜明けの〈待つ〉ということ——」（『創造と思考』第二三号、二〇〇三年三月）
- ・「大岡昇平におけるフィリピン」日本近代文学のアジア 第八回（『アジア遊学』第五四号、二〇〇三年八月）
- ・「三島由紀夫『沈める滝』考——変化の不可抗性——」（特集 近・現代文学——その転換と回帰の諸相）（『國學院雑誌』第一〇五卷第二一号、二〇〇四年一月）
- ・「夫としての漱石」（特集 ジェンダーで読む夏目漱石）（『国文学解釈と鑑賞』第七〇巻第六号、二〇〇五年六月）
- ・「『死の棘』日記」から見る「死の棘」——島尾敏雄論」（特集 第三の新人——二二世紀からの照射）（『国文学解釈と鑑賞』第七一卷第二号、二〇〇六年二月）
- ・「大岡昇平——俘虜としての戦中戦後」（特集 近代における「思想」と「文学」）（『国語と国文学』第八三卷第一号、二〇〇六年一月）
- ・「核戦争の危機を訴える文学者の声明」と大岡昇平」（特集・〈戦後〉空間と〈日本〉文学）（『日本文学』第五五卷第一号、二〇〇六年一月）
- ・「大岡昇平による富永太郎——大正十二年・「俯瞰景」を中心にして」（『論究日本文学』第八七号、二〇〇七年十二月）

- ・「大岡昇平における横光利一・覚え書——「寝園」「機械」「母」を手がかりに——」（『横光利一研究』第六号、二〇〇八年三月）
- ・「三島由紀夫『金閣寺』——鳳凰を夢みた男——」（『三島由紀夫研究』第六卷（特集 三島由紀夫・金閣寺）、二〇〇八年七月）
- ・「大岡昇平手稿『俘虜記』の考察——僚友・私のプライド・俘虜の〈恥〉——」（『論究日本文学』第九六号、二〇一二年五月）
- ・「三島由紀夫と大岡昇平——『聲』創刊前の「鉢の木会」時代を中心に——」（『三島由紀夫研究』第一二卷（特集・三島由紀夫と同時代作家）、二〇一二年六月）
- ・「大岡昇平における〈不条理〉——俘虜・赤十字・カミュ——」（特集〈不条理〉に對峙する文学）（『昭和文学研究』第六五集、二〇一二年九月）
- ・「草稿からの分化、作品生成へ——大岡昇平「出征」と『野火』——」（『国文目白』第五二号、二〇一三年二月）
- ・「恋愛と結婚と……大岡昇平・スタンダール・司祭アンドレ」（『受容から創造性へ——日本近代文学におけるスタンダールの場合——』（高等研報告書¹²⁰²、研究代表者ジュリー・ブロック）、二〇一三年三月）
- ・「大岡昇平『野火』草稿にみる『俘虜記』との分岐、差異化と生成——「動物的」な「恐怖」「愛情」から「社会的感情」、「生物学的感情」へ——」（『立命館文学』第六三〇号（中西健治教授退職記念論集）、二〇一三年三月）
- ・「太宰治「ろまん燈籠」考——グリム童話集と連句的発想と——」（『太宰治研究』第二二号、二〇一三年六月）
- ・「大岡昇平『野火』手稿——『展望』初出第三回分について——」（『論究日本文学』第一〇〇号、二〇一四年五月）
- ・「三島由紀夫・方法としての貴種流離——昭和三十年前後・「鯛売恋曳網」「海と夕焼」を中心に——」（『論究日本文学』第一〇七号、二〇一七年一月）
- ・「大岡昇平『花影』の生成——初出原稿からの考察——子供の声・「怨み」の削除・葉子の孤絶——」（『国語と国文学』第九五巻第四号、二〇一八年四月）
- ・「大岡昇平における〈京都〉——木橋を踏む淋しさと愛する疎水の風景——」（『立命館大学人文科学研究所紀要』第一二二号、二〇二〇年二月）
- ・「大正一三（一九二四）年を中心に——横光利一と小林秀雄——」（『横光利一研究』第一八号、二〇二〇年三月）
- ・「大岡昇平『逆杉』——草稿からの変容——〈人事と自然の一致〉のゆくえ——」（『論究日本文学』第一一九号、二〇二三年一月）
- ・「大岡昇平『釣狐』考——狂言〈引用〉と生成過程と——」（『立命館大学人文科学研究所紀要』第一三八号、二〇二四年三月）

分担・項目執筆（論文）

- ・「大岡昇平——戦後の文体」（大屋幸世・神田由美子・松村友視編『スタイルの文学史』、東京堂出版、一九九五年三月）

- ・「混沌からの出発―散文の構想力―近代・現代文学」（麻原美子編『日本の文学とことば——日本文学はいかに生まれいかに読まれたか』、東京堂出版、一九九八年三月）
- ・「みずゝの朝焼、中也の夕照」（詩と詩論研究会編『金子みずゝ永遠の母性』、勉誠出版、二〇〇一年八月）
- ・「松浦理英子」（女性文学会編『たとえば純文学はこんなふうにして書く——若手作家に学ぶ実践的創作術』、同文書院、一九九七年二月）
- ・「戦争」（渡邊澄子編『女性文学を学ぶ人のために』、世界思想社、二〇〇〇年一〇月）
- ・「四季」（詩と詩論研究会編『金子みずゝの世界』、勉誠出版、二〇〇二年七月）
- ・「増田れい子」（青木生子・岩淵宏子編『日本女子大学に学んだ文学者たち』、翰林書房、二〇〇四年一月）
- ・「葬儀の日」——川の兩岸・関係の追究——（清水良典編『現代女性作家読本5 松浦理英子』、鼎書房、二〇〇六年六月）
- ・「『生』——水・記憶・書くこと——」（川村湊編『現代女性作家読本8 柳美里』、鼎書房、二〇〇七年二月）
- ・「『関西弁』からみる大岡昇平の文学」（日本近代文学会関西支部編『近代文学のなかの『関西弁』——語る関西／語られる関西——』、和泉書院、二〇〇八年十一月）
- ・「柳美里と鷺沢萌——東京・神奈川——錯綜と断絶をかかえて」（木村一信・崔在喆編『韓流百年の日本語文学』、人文書院、二〇〇九年一〇月）
- ・「L'amour et le mariage-Ôoka Shôhei, Stendhal et André le Chapelain」シムリ・ブロック編『受容と創造性 RÉCEPTION ET CRÉATIVITÉ』第一巻、Peter Lang、二〇一一年九月
- ・「大岡昇平『花影』——吉野行の記述から考える長篇小説」（白百合女子大学言語・文学研究センター『長篇小説の扉 アウリオン叢書18』、弘学社、二〇一八年三月）

分担・項目執筆（事典・辞典項目）

- ・「長谷川かな女」「小林美代子」「香山彬子」「木村治美」「北原リエ」の項（村松定孝・渡辺澄子編『現代女性文学辞典』、東京堂出版、一九九〇年一〇月）
- ・一般項目執筆（森岡健二・徳川宗賢他編『国語辞典』、集英社、一九九三年二月）
- ・「夢野久作の日記」「社会主義伝道行商日記」「華魁（谷崎潤一郎）」「亡友（谷崎潤一郎）」の項（佐藤實他・編『別冊歴史読本43 日本奇書・偽書・異端書大鑑』、新人物往来社、一九九四年四月）
- ・「家庭の幸福」「失敗園」「雀」の項（神谷忠孝・安藤宏編『太宰治全作品研究事典』、勉誠社、一九九五年一月）
- ・一般項目執筆（徳川宗賢編『ポケット国語辞典』、集英社、一九九六年五月）

- ・「北村透谷」「木村きん」「小金井喜美子」「佐佐木光子」「下田歌子」「鶴田たみ子」「戸川達子」「二十二宮人丸」「畑島桃蹊」「樋口勘次郎」の項（関礼子・高田知波・山田有策他編『樋口一葉事典』、おうふう、一九九六年一月）
- ・『『あ・うん』——向田邦子作品鑑賞』（井上謙・神谷忠孝編『向田邦子鑑賞事典』、翰林書房、二〇〇〇年七月）
- ・「愛の渴き」「新古典派」「道徳と孤独」「日本の小説家はなぜ戯曲を書かないか？」「批評家に小説がわかるか」「大岡昇平」「武田泰淳」の項（松本徹・佐藤秀明・井上隆史編『三島由紀夫事典』、勉誠出版、二〇〇〇年一月）
- ・「石原慎太郎の文学舞台——小樽と湘南を視座として——」（志村有弘編『石原慎太郎を知りたい 石原慎太郎事典』、勉誠出版、二〇〇一年八月）
- ・「宮部みゆき」（川村湊・原善編『現代女性作家研究事典』、鼎書房、二〇〇一年九月）
- ・「横須賀」「疑惑」「実話昆虫採集記」「田端人」「田端日記」「葱」「春の夜は」「横須賀小景」「路上」の項（志村有弘編『芥川龍之介大事典』、勉誠出版、二〇〇二年七月）
- ・「阿川弘之『雲の墓標』」「石川達三『人間の壁』」「鷺沢萌『葉桜の日』」「高橋和巳『悲の器』」「邪宗門」「出久根達郎『佃島ふたり書房』」「藤堂志津子『熟れてゆく夏』」の項（栗坪良樹編『現代文学鑑賞辞典』、東京堂出版、二〇〇二年三月）
- ・「雛」「横須賀」の項（関口安義編『芥川龍之介新辞典』、翰林書房、二〇〇三年二月）
- ・「『花影』」「『雲の墓標』」「『堺港攘夷始末』」「『野火』」「『俘虜記』」「『武蔵野夫人』」「『レイテ戦記』」「『大岡昇平』」の項（浅井清・佐藤勝編『日本現代小説大事典』、明治書院、二〇〇四年七月）
- ・「雀こ」「赤心」の項（志村有弘・渡部芳紀編『太宰治大事典』、勉誠出版、二〇〇五年一月）
- ・「昭和二十九年（一九五四）」「昭和三十年（一九五五）」「昭和三十一年（一九五六）」の項（『別冊 国文学解釈と鑑賞』（特集「編年体近代現代女性文学史」）、至文堂、二〇〇五年二月）
- ・「大岡昇平」の項（中村明編『日本語 文章・文体・表現事典』、朝倉書店、二〇一一年六月）
- ・「大岡昇平」「山崎正和」「吉武輝子」の項（日本近代文学会関西支部・兵庫近代文学事典編集委員会編『兵庫近代文学事典』、和泉書院、二〇一一年一月）
- ・「大岡昇平」「辻田克巳」「成瀬無極」「村上幸雄」の項（日本近代文学会関西支部・京都近代文学事典編集委員会編『京都近代文学事典』、和泉書院、二〇一三年五月）
- ・「大岡昇平——第二部 作家別事例」（日本近代文学館編『近代文学草稿・原稿研究事典』、八木書店古書出版部、二〇一五年二月）
- ・「戦争」（有元伸子・久保田裕子編『21世紀の三島由紀夫』、翰林書房、二〇一五年一月）
- ・「義妹」「熱い雪」「春の舞踏」の項（秋山駿・原善・原田桂編『三浦哲郎全作品研究事典』、鼎書房、二〇二〇年八月）
- ・「大岡昇平」の項（秋山駿氏執筆箇所後の増補箇所）（日本近代文学館編『日本近代文学大事典 増補改訂デジタル版』、講談社、二〇二三年

五月公開)

・「大岡昇平」「京都」「大国主命」「戦後文章論」の項(安藤宏・大原祐治・十重田裕一編『坂口安吾大事典』、勉誠出版、二〇二二年六月)

口頭発表・シンポジウム

- ・「大岡昇平における初出「ハムレット日記」の意味」(日本女子大学大学院の会、一九八五年六月・八月、於・日本女子大学目白キャンパス)
- ・「大岡昇平における〈光〉のイメージと意味」(日本近代文学会二月例会、「特集 大岡昇平の「昭和」、一九九〇年一月一七日、於・國學院大學渋谷キャンパス)
- ・「心象の地形―『幼年』『少年』の渋谷―」(昭和文学会春季大会、「特集 二十一世紀の大岡昇平」、一九九六年六月八日、於・國學院大學渋谷キャンパス)
- ・「戦争の記憶」(趣旨説明・司会(杉浦晋氏と)、パネリストⅡ上野千鶴子、神谷忠孝、紅野謙介、成田龍一の各氏)(日本近代文学会春季大会、二〇〇〇年五月二八日、於・大妻女子大学千代田キャンパス)
- ・「俘虜としての戦中戦後―大岡昇平―」(昭和文学会春季大会、二〇〇三年六月一四日、於・早稲田大学早稲田キャンパス)
- ・「大岡昇平の戦中戦後」(立命館大学日本文学会大会、二〇〇六年六月一日、於・立命館大学衣笠キャンパス)
- ・「コメント―大岡昇平「捉まるまで」『ミンドロ島ふたたび』から」(立命館大学言語文化研究所連続講座第三回「アジア 上海の養女たち」、二〇〇六年六月二三日、於・立命館大学衣笠キャンパス)
- ・「『関西弁』からみる大岡昇平の文学」(日本近代文学会関西支部春季大会、特集『《シンポジウム》近代文学のなかの『関西弁』―語る関西／語られる関西』、二〇〇八年六月一四日、於・花園大学)
- ・「大岡昇平の自筆資料を調査して」(日本近代文学館 図書資料委員会、二〇一三年五月一日、於・日本近代文学館(東京・駒場))
- ・「大岡昇平の戦後文学」(立命館大学土曜講座、二〇〇九年七月一日、於・立命館大学衣笠キャンパス)
- ・「日本近代文学研究をつづけて―大岡昇平を中心に―」(立命館大学退職記念講義、二〇二六年三月一四日、於・立命館大学衣笠キャンパス)

その他

指導書

- ・「加藤周一「日本文化の雑種性」」「語句、表現の研究」他、指導資料（『精選 現代文 指導資料 二分冊』、東京書籍、一九九五年）
- ・「大岡昇平「暗号手」」「叙述と注解」他、学習指導の研究（『ちくま現代文 学習指導の研究 6』、筑摩書房、一九九六年三月）

書評・新刊

- ・「小島千加子著『作家の風景』」（『国文目白』第三二号、一九九三年二月）
- ・「堀巖著『文体復興』」（『日本近代文学』第五五集、一九九六年一〇月）
- ・「福島行一著『大仏次郎の横浜』」（『日本近代文学』第六〇集、一九九九年五月）
- ・「野田康文著『大岡昇平の創作方法——『俘虜記』『野火』『武蔵野夫人』』」（『日本近代文学』第七五集、二〇〇六年一月）
- ・「大原祐治著『文学的記憶・一九四〇年前後——昭和期文学と戦争の記憶』」（『日本文学』第五六卷第六号、二〇〇七年六月）
- ・「立尾真士著『死』の文学、「死者」の書法 椎名麟三・大岡昇平の「戦後」』」（『日本近代文学』第九四集、二〇一六年五月）

シンポジウムコメント

- ・上野千鶴子・神谷忠孝・紅野謙介・成田龍一、（司会Ⅱ杉浦晋氏と）「討論—シンポジウム「戦争の記憶」」（『日本近代文学』第六三集、二〇〇〇年一〇月）
- ・「シンポジウム「戦争の記憶」——司会者からの趣旨説明」（『日本近代文学』第六三集、二〇〇〇年一〇月）
- ・花崎育代・日比嘉高「コメントおよび質疑応答（特集 国民国家と多文化社会（第一六シリーズ） 帝国の孤児たち——二〇世紀の日本語作家）（アジア——上海の養女たち）」（『立命館言語文化研究』第一九卷第三号、二〇〇八年二月）

年譜

- ・「網野菊略年譜」（編著）（河野多恵子監修『女性作家シリーズ5 網野菊／芝木好子／中里恒子』、角川書店、一九九九年五月）
- ・「松浦理英子略年譜」（編著）（河野多恵子監修『女性作家シリーズ21 山田詠美／増田みず子／松浦理英子／笹野頼子』、角川書店、一九九九年七月）
- ・「松浦理英子年譜」（清水良典編『現代女性作家読本5 松浦理英子』、鼎書房、二〇〇六年六月）
- ・「大岡昇平年譜」（『池澤夏樹Ⅱ個人編集 日本文学全集18 大岡昇平』、河出書房新社、二〇一六年七月）

解説・解題

- ・「大岡昇平」（山田有策編『近代文学Ⅱ』、学術図書出版社、一九九〇年四月）
- ・「三島由紀夫『小説家の休暇』、大岡昇平『成城だより』他八編 解題―近代・現代の日記100選解題」（『国文学解釈と教材の研究』第四一巻第二号、一九九六年二月）
- ・「小説・評論―昭和二三年（一九四八）―昭和三〇年（一九五五）―解説」（畑有三・山田有策・長野隆編『作品で綴る近代文学史』、双文社出版、一九九六年四月）
- ・「大岡昇平」「木下順二」「野間宏」「壺井栄」「大江健三郎」（近代・現代の手紙50選解題）（『国文学解釈と教材の研究』第四五巻第一三三号、二〇〇一年十一月）
- ・「解説」（高良留美子・岩見照代編『女性のみた近代Ⅱ 女の生活 滝本種子『目白生活』、ゆまに書房、二〇〇五年三月）

研究動向

- ・「異境からの出発―大岡昇平と安部公房―」（『国語科通信』第九三号、一九九五年六月）
- ・「平成六年国語国文学界の展望（Ⅱ）―近代―大岡昇平」（『文学・語学』第一四九号、一九九五年十二月）
- ・「平成十年国語国文学界の展望（Ⅱ）―近代―戦後文学」（『文学・語学』第一六五号、一九九九年一〇月）
- ・「密度（大会テーマ）「いま、〈文学〉をどう学ぶか？」に向けて」（『日本文学』第五四巻第一〇号、二〇〇五年一〇月）
- ・「近代部門―編集報告」（『日本文学』第五五巻第一一〇号、二〇〇六年十一月）

- ・「基調講演 佐藤卓己」「終戦記念日の神話」を超えて「印象記」（坂口安吾研究会第一四回研究集会、二〇〇七年三月二四日、掲載は旧坂口安吾研究会公式サイト〈<https://angoken.web.fc2.com/insyou.html#14syukai>〉）
- ・『『聲』の自筆原稿―戦後画した「鉢の木会」から発信―』（『日本近代文学館館報』第二四二号、二〇一一年七月）
- ・「研究動向 大岡昇平」（『昭和文学研究』第七九集、二〇一九年九月）